

ドクターインタビュー

河合 修三(かわい しゅうぞう)先生

皮膚科シュウゾー 院長

大阪府豊中市、地下鉄御堂筋線「緑地公園」駅から徒歩1分。平成15年に開院された「皮膚科シュウゾー」で、アトピー性皮膚炎、ニキビや巻き爪など、様々な治療を行ってられる院長の河合先生にお話を伺いました。

—— 医院の特長、先生の治療方針などお聞かせください。

当院では、これまでの様々な臨床経験を基にして皮膚疾患の診療を行っています。様々な治療を受けてきたが、なかなか良くならないと患者さんが困っておられる多くの疾患を、新しい治療方法を取り入れながら一つでも治すことを最大の目的としています。アトピー性皮膚炎で初めて来院される患者さんには、皮膚の構造から説明します。話だけでは伝わりにくいで、モニター画面を駆使して病状をわかりやすく説明し、患者さんと目標を一緒にして、治療に向えるよう心掛けています。アトピーはこういう病気だよと理解してもらうと、患者さんの治療に対する認識も変わってきます。

—— 日々の診療で感じておられる事や、先生の治療法についてお聞かせいただけますか。

少し前に広島大学からアトピー性皮膚炎の原因にマラセチアが関係しているという研究結果も出ていますが、私もアトピーにマラセチアが関係していると考えています。マラセチアとは、健康な人にもある皮膚常在菌でカビのことで、

アトピー性皮膚炎の治療は、脂漏部位(頭や顔、胸や背中の中中部など皮脂が多くでる部位)以外は、従来どおりステロイド外用剤を使用します。脂漏部位に関しては、極力プロトピック軟膏(タクロリムス軟膏)の使用を勧めています。ステロイド外用の最大の良い理由は、ステロイドが皮膚の脂漏部位のマラセチアを増殖させる可能性があることです。つまり、誰にでもあるようなカビが増えてしまうんですね。皮膚萎縮が起こるのも良くありません。なので、ステロイドで皮膚炎を抑えていても、皮膚が薄くなってカビを増やし、マラセチアの抗体価が上がると悪循環になってしまいます。

白癬菌の感染においてもステロイドの外用で悪化することがあり、ステロイドが原因はマラセチアであると考えられる皮膚科医も多くおられます。成人の顔面など脂漏部位に皮疹を有するアトピー性皮膚炎の人の多くが、マラセチア抗体価が高く、治療には抗真菌剤(カビの薬)が有効であることが報告されています。その点、プロトピック軟膏はマラセチアへの抗真菌活性も報告されていて、理論的に優れているだけでなく、実際の治療成績にも差があると感じています。しかし、顔面や頸部にステロイド外用を長く続けている場合、プロトピック軟膏に変えると、ほてって、ヒリヒリして、激しい刺激感で辛く、患者さんが我慢できなくて続けるのが困難なことが多々あります。

そこで当院では、アレルギー症状を抑える薬「リザベン」「オノン」、炎症をやわらげる漢方「柴胡清肝湯」など内服薬を併用して、プロトピック軟膏の外用を勧めています。すると、刺激感などが減りプロトピックの外用が可能になるだけでなく、内服の効果で全身の皮疹に改善効果も得られます。これらの内服薬と、ステロイドと同じ免疫抑制剤だけれども、抗真菌活性がありなおかつ皮膚萎縮の起こらないプロトピックを使用することが私の治療法の一歩のエッセンスです。

—— 具体的にどのように治療を進めていかれるのですか？

ステロイド外用剤を塗ってなかなか治らないという方も、プロトピックの外用と先ほどの飲み薬で治療するとつるつるになる患者さんが多くいます。皮膚の状態を良くしていくことが大切ですね。体の末端はステロイドでもいいと思いますが、顔の症状が酷い場合、目が悪くなる可能性があるため従来どおりの治療で良くならないなら、なるべくステロイドに頼らないように、保湿をちゃんとしてプロトピックを外用します。そして、リザベンを内服して治らないときはオノン、それでもだめなときは柴胡清肝湯を使います。柴胡清肝湯は、本来は子どもが使うような漢方と言われていて、濃んでいるようなジクジクした症状にも効きます。大人の神経症などにも効くといわれ、服用すると性格が穏やかになってくることが多いです。脳と神経と皮膚は相関するといえますね。リザベンは年配の女性の場合膀胱炎などになる場合があり、高齢の人は肝障害が出るケースがあるので気を付けて処方します。

DOCTOR INTERVIEW



河合 修三(かわい しゅうぞう)先生のプロフィール

昭和60年関西医科大学皮膚科学教室入局後、倉敷中央病院皮膚科に転出。
帰向後、同大学皮膚科学教室にて医局長、外来医長、病棟医長、講師を歴任。
平成15年8月「皮膚科シュウゾー」を開院。

日本皮膚科学会、日本褥瘡学会に所属
大阪皮膚科医会 会長
日本臨床皮膚科医会 近畿 理事
日本フットケア技術協会 理事
活発な医学会報告活動、皮膚疾患治療についての講演も多数。
著書、国内外に多数。

DOCTOR INTERVIEW

後は食生活。なるべく和食、特に油っぽいものは控える。また、脂漏部位が悪い人でマラセチアが原因の患者さんにはオリーブオイルを控えてもらっています。脂漏性湿疹で治療にこられる年配の患者さんは、オリーブオイルをよく摂取している場合が多いんですよ。

また、脂漏性湿疹も新生児が瘡も基本的にはマラセチアが原因のことが多いのでステロイドの使用はよくありません。皮膚炎は一時的に収まりますが、カビが増えますからね。辞めると悪くなるのを繰り返すので、ポロポロになってしまうんですね。カビのお薬で良くなりますが、皮膚科の先生はあまり使用しません。アトピーの治療にもマラセチアが関連している範囲は広いので、カビを考えた治療が大切です。長い間ステロイドを外用している人も、前述の飲み薬とプロトピックで早く良くなりますよ。いろいろなケースがあって、見極めが大事ですがこの治療法でほしい改善されます。あまり浸透していませんが、広まればいいなと思っています。

—— 診察室で患者さんを診ておられて、最近の傾向やお気づきのことなどお聞かせください。

アトピーの人は、四季に応じて症状が出て休まるときが少ないですね。最近涼しくなって過ごしやすくなりましたが、朝晩の温度差で乾燥し悪化する方もおられます。3月下旬からゴールデンウィークまでは、杉や檜の花粉、檜の方が全身に影響がでる人が多いように感じます。夏は汗自体が肌に悪い。汗は汗が肌に染みこんで悪くなるので、夏でも保湿剤は塗るように指導しています。汗が出ないのは、肌が乾燥して汗が染みこんでしまっているからで、肌が整えば汗が浮き出て来て、汗が出るようになっていく場合もよくあります。汗の影響は大きいですね。

—— 患者さんへメッセージをお願いします。

アトピー性皮膚炎は、基本的には、医療でないと治せないと思います。自分に合った治療法を見つけてください。「いいとこどり」の治療をしないとね。漢方薬だけでも難しいし、プロトピックだけでも難しい。でもいいお薬を組み合わせるといい成果がでる場合があると思います。食生活を和食中心にする、ダニ・ほこりを減らすなど環境を整えることも大切です。今アトピーの患者さんは10人に1人とされていて、自分だけが苦しんでいるわけではありません。大変ですが治療をあきらめず、解決策を見つけて少しでもいい状態を保てるようにしましょう。

—— 本日は、ありがとうございました。